

□ アナリスト週間相場予想

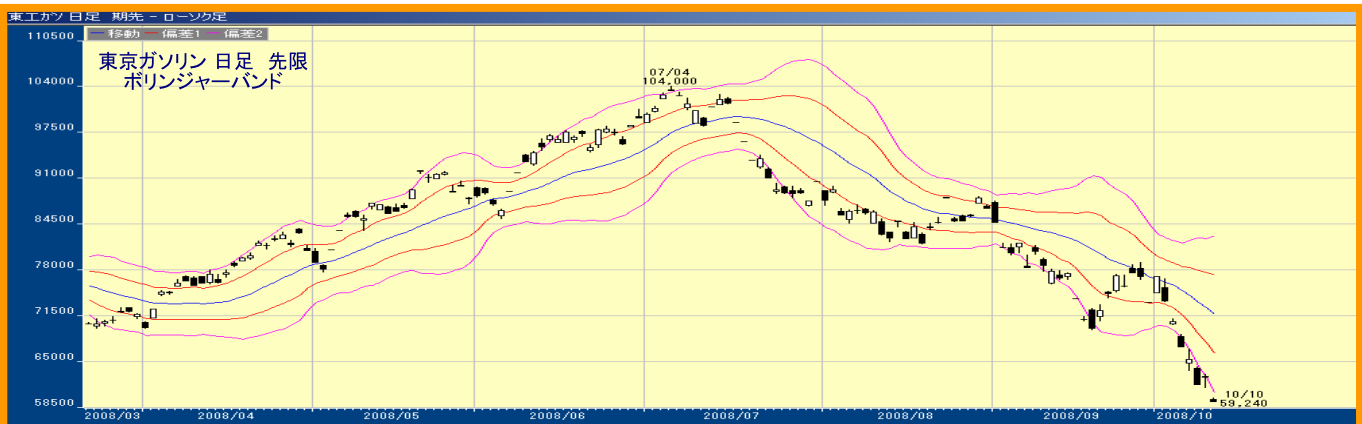
	原油 Oil	ガソリン Oil	灯油 Oil
江崎			
西			

Pick up News

[注目スケジュール]

- 10/13 米国休場
- 16 原油・石油製品供給統計週報（石油連盟）
米エネルギー情報局（EIA）週間在庫
- 17 米商品先物取引委員会（CFTC）建玉報告

□ テクニカル分析（担当：西 勝之）



エネルギーは先週に引き続き弱気方針。チャートは東京ガソリン先限日足にボリンジャーバンドを被せたものであるが連日一代安値を更新中。先週の週報で言及した下降バンドウォークは現実の物となり、下げ止る気配よりも、適度な戻りを入れて更なる安値圏突入の恐れがある日足となっている。ボリンジャーバンドは日足が下降しているにも関わらず標準偏差 $+2\sigma$ と -2σ は拡散中。下降バンドウォークの一時停止のサインとなる -1σ への戻りを確認するまでは安易な買い参入は致命傷となりかねない。エネルギーセクターごと当方売り方針継続。尚、あまりに高いボラティリティを嫌うならば継続してガソリン売りクラックがよいと感じる。灯油買いガソリン売りのストラドルは先週からの推移が好ましくない（曲がっている）為撤退。クラックのみで攻めるのが好ましい。（10/10前引け現在）

□ ファンダメンタル分析（担当：江崎 和弘）

原油及び石油製品に関しては、このまま弱気な見方を維持しておくのが妥当であろう。サブプライム問題に端を発した信用不安は世界同時利下げでも抑えることが出来ず、株式市場は完全に底抜けしてしまった。株安でダメージを受けた家計が消費抑制に走るのはいよいよ必至であり、ガソリン代下落が消費者マインドを好転させるとの期待も消し飛んでしまった。米国ではフォードやGMが経営危機に瀕し、自動車販売は低迷を極めていいる。消費者の生活防衛スタイルが強固になれば、実需はさらに下ブレる可能性も否定できない。これは日米ともに言えることで、金融市場の安定化なしには相場も上がり切れない状況が続くものと考えておきたい。

世界景気は米国と切り離すことはできず、デカップリング論はもはや間違いであったことが明白となった。かの中国でさえも利下げモードで内需振興に躍起になっているのが現状。矢継ぎ早に出される対策は金融市場のほうを向いているだけで、本格的な景気対策が取られない限りは、このような軟調地合いは改善しづらいと見るべきであろう。需要減少への懸念が上値を重くし、時間とともに水準を切り下げにかかる可能性が高い。目先、どこかで戻りはあるのだろうが、それを待って買うのはリスクが大きく、戻ったら売り直すぐらいの心構えでいたい。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

許可RE0050（許可取得日08/10/10）